



関連イベントとコンプライアンス イベント

次のトピックでは、関連イベントとコンプライアンスイベントを表示する方法について説明します。

- [関連イベントの表示 \(1 ページ\)](#)
- [コンプライアンス許可 \(Allow\) リストワークフローの使用 \(5 ページ\)](#)
- [修復ステータス イベント \(11 ページ\)](#)

関連イベントの表示

アクティブな関連ポリシーに含まれる関連ルールがトリガーとして使用されると、システムが関連イベントを生成してデータベースにそれを記録します。



- (注) アクティブな関連ポリシーに含まれるコンプライアンスallowリストがトリガーとして使用されると、システムがallowリストイベントを生成します。

関連イベントのテーブルを表示し、検索対象の情報に応じてイベントビューを操作できます。

マルチドメイン展開環境では、現在のドメインと子孫ドメインのデータを表示することができます。上位レベルのドメインまたは兄弟ドメインのデータを表示することはできません。

関連イベントにアクセスしたときに表示されるページは、使用するワークフローによって異なります。関連イベントのテーブルビューが含まれる定義済みワークフローを使用できます。また、特定のニーズを満たす情報だけを表示するカスタムワークフローを作成することもできます。

始める前に

このタスクを実行するには、管理者またはセキュリティアナリスト (Security Analyst) ユーザーである必要があります。

手順

ステップ 1 [分析 (Analysis)] > [関連 (Correlation)] > [関連イベント (Correlation Events)] を選択します。

オプションで、カスタムワークフローなど、別のワークフローを使用するには、ワークフローのタイトルの横の [(ワークフローの切り替え) ((switch workflow))] をクリックします。

ヒント 関連イベントのテーブル ビューが含まれないカスタム ワークフローを使用している場合は、[(ワークフローの切り替え) ((switch workflow))] をクリックし、[関連イベント (Correlation Events)] を選択します。

ステップ 2 オプションで、[時間枠の変更](#)の説明に従って、時間範囲を調整します。

ステップ 3 次のいずれかの操作を実行します。

- 表示されるカラムの詳細については、[関連イベントのフィールド \(3 ページ\)](#) を参照してください。
- IP アドレスのホストプロファイルを表示するには、IP アドレスの横に表示されるホストプロファイルをクリックします。
- ユーザー ID 情報を表示するには、[ユーザー ID (User Identity)] の隣に表示される [ユーザー (User)] アイコン、または IOC に関連付けられているユーザーの場合は [レッドユーザー (Red User)] をクリックします。
- 現在のワークフロー ページ内でイベントをソートしたり制限したり、または移動するには、[ワークフローの使用](#)を参照してください。
- 現在の制約を維持しながら現在のワークフローのページ間で移動するには、ワークフロー ページの左上にある該当するページリンクをクリックします。
- 特定の値に制限して、ワークフロー内の次のページにドリルダウンするには、[ドリルダウン ページの使用](#)を参照してください。
- 一部またはすべての関連イベントを削除するには、削除するイベントの横にあるチェックボックスをオンにして [削除 (Delete)] をクリックするか、[すべて削除 (Delete All)] をクリックして現在の制約されているビューにあるすべてのイベントを削除することを確認します。
- 他のイベント ビューに移動して関連イベントを表示するには、[ワークフロー間のナビゲーション](#)を参照してください。
- システムの外部にある利用可能なソース内のデータを表示するには、イベント値を右クリックします。表示されるオプションはデータ タイプによって異なり、パブリック ソースが含まれます。他のソースは設定したリソースによって異なります。詳細については、[Web ベースのリソースを使用したイベントの調査](#)を参照してください。
- イベントに関するインテリジェンスを収集するには、テーブルでイベントの値を右クリックして、シスコまたはサードパーティのインテリジェンス ソースを選択します。たとえば、不審な IP アドレスに関する詳細情報を Cisco Talos から入手できます。表示されるオ

プッシュは、データタイプやシステムに設定されている統合によって異なります。詳細については、[Web ベースのリソースを使用したイベントの調査](#)を参照してください。

関連トピック

[データベース イベント数の制限](#)

[ワークフローのページ](#)

関連イベントのフィールド

関連ルールがトリガーとして使用されると、システムは関連イベントを生成します。次の表では、表示および検索可能な関連イベント テーブルのフィールドについて説明します。

表 1: 関連イベントのフィールド

フィールド	説明
説明	<p>関連イベントについての説明。説明に示される情報は、ルールがどのようにトリガーとして使用されたかによって異なります。</p> <p>たとえば、オペレーティングシステム情報の更新イベントによってルールがトリガーとして使用された場合、新しいオペレーティングシステムの名前と信頼度レベルが表示されます。</p>
Device	ポリシー違反をトリガーとして使用したイベントを生成したデバイスの名前。
ドメイン (Domain)	ポリシー違反をトリガーとして使用したモニター対象トラフィックのデバイスのドメイン。このフィールドは、マルチテナンシーのために Management Center を設定したことがある場合に表示されます。
影響 (Impact)	<p>侵入データ、ディスカバリ データ、および脆弱性情報の間の相関に基づいて関連イベントに割り当てられた影響レベル。</p> <p>このフィールドを検索する場合、大文字と小文字を区別しない有効な値は、Impact 0、Impact Level 0、Impact 1、Impact Level 1、Impact 2、Impact Level 2、Impact 3、Impact Level 3、Impact 4、および Impact Level 4 です。影響アイコンの色または部分文字列は使用しないでください (たとえば、blue、level 1、または 0 を使用しないでください)。</p>
入力インターフェイス (Ingress Interface) または出力インターフェイス (Egress Interface)	ポリシー違反をトリガーとして使用した侵入イベントまたは接続イベントの入力または出力インターフェイス。
入力セキュリティゾーン (Ingress Security Zone) または出力セキュリティゾーン (Egress Security Zone)	ポリシー違反をトリガーとして使用した侵入イベントまたは接続イベントの入力または出力セキュリティゾーン。

フィールド	説明
インライン結果	<p>次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 黒の下矢印：侵入ルールをトリガーとして使用したパケットがシステムによってドロップされたことを示します • グレーの下矢印：侵入ポリシー オプション [インライン時にドロップ (Drop when Inline)] を有効にした場合、インライン型、スイッチ型、またはルーティング型展開でパケットがシステムによってドロップされたことと想定されることを示します • 空白：トリガーとして使用された侵入ルールが [ドロップしてイベントを生成する (Drop and Generate Events)] に設定されていなかったことを示します <p>侵入イベントによってトリガーとして使用されたポリシー違反を検索するためにこのフィールドを使用する場合は、次のいずれかを入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • dropped は、インライン型、スイッチ型、またはルーティング型展開でパケットがドロップされたかどうかを示します。 • would have dropped は仮定を表します。インライン型、スイッチ型、またはルーティング型展開でパケットをドロップするよう侵入ポリシーが設定されていると仮定した場合、パケットがドロップされるかどうかを示します。 <p>侵入ポリシーのドロップ動作やルール状態とは無関係に、パッシブ展開 (インラインセットがタップモードである場合を含む) ではシステムがパケットをドロップしないことに注意してください。</p>
ポリシー	違反が発生したポリシーの名前。
[プライオリティ (Priority)]	<p>関連イベントのプライオリティ。これは、トリガーとして使用されたルールのプライオリティまたは違反が発生した関連ポリシーのプライオリティによって決まります。このフィールドを検索するとき、プライオリティなしの場合は none を入力します。</p>
ルール (Rule)	ポリシー違反をトリガーとして使用したルールの名前。
セキュリティインテリジェンスカテゴリ (Security Intelligence Category)	<p>ポリシー違反をトリガーしたイベントでブロックされた IP アドレスを表すか、またはそれを含むオブジェクトの名前。</p> <p>このフィールドを検索する場合は、ポリシー違反をトリガーとして使用した関連イベントに関連付けられたセキュリティインテリジェンスのカテゴリを指定します。セキュリティインテリジェンスのカテゴリとして、セキュリティインテリジェンスオブジェクト、グローバルブロックリスト、カスタムセキュリティインテリジェンスリストまたはフィード、あるいはインテリジェンスフィードに含まれるいずれかのカテゴリを指定できます。</p>
送信元の大陸 (Source Continent) または宛先の大陸 (Destination Continent)	ポリシー違反をトリガーとして使用したイベントの送信元または宛先ホスト IP アドレスに関連付けられた大陸。

フィールド	説明
送信元の国 (Source Country) または宛先の国 (Destination Country)	ポリシー違反をトリガーとして使用したイベントの送信元または宛先 IP アドレスに関連付けられた国。
送信元ホストのシビラティ (重大度) (Source Host Criticality) または宛先ホストのシビラティ (重大度) (Destination Host Criticality)	<p>関連イベントに関連する送信元または宛先ホストにユーザが割り当てたホスト重要度。None、Low、Medium、または High のいずれかです。</p> <p>ディスクバリエーション、ホスト入力イベント、または接続イベントに基づくルールによって生成された関連イベントにのみ、送信元ホスト重要度が含まれることに注意してください。</p>
送信元 IP (Source IP) または宛先 IP (Destination IP)	ポリシー違反をトリガーとして使用したイベントの送信元または宛先ホストの IP アドレス。
送信元ポート/ICMP タイプ (Source Port/ICMP Type) または宛先ポート/ICMP コード (Destination Port/ICMP Code)	ポリシー違反をトリガーとして使用したイベントに関連付けられた、送信元トラフィックの送信元ポート/ICMP タイプまたは宛先トラフィックの宛先ポート/ICMP コード。
送信元ユーザ (Source User) または宛先ユーザ (Destination User)	ポリシー違反をトリガーとして使用したイベントの送信元または宛先ホストにログインしたユーザの名前。
時刻 (Time)	関連イベントが生成された日時。このフィールドは検索できません。
カウント (Count)	各行に表示される情報と一致するイベントの数。[カウント (Count)] フィールドは、複数の同一行が生成される制限を適用した後でのみ表示されることに注意してください。このフィールドは検索できません

関連トピック

[イベントの検索](#)

コンプライアンス許可 (Allow) リストワークフローの使用

Management Center は、ネットワークで生成される allow リストのイベントおよび違反の分析で利用できるワークフローセットを提供します。ワークフローはネットワークマップやダッシュボードとともに、ネットワーク資産のコンプライアンスに関する主要な情報源になります。

システムは、allow リストのイベントと違反のために事前定義されたワークフローを提供します。ユーザはカスタム ワークフローを作成することもできます。コンプライアンス allow リストワークフローを使用すると、多くの一般的なアクションを実行できます。

始める前に

このタスクを実行するには、管理者、セキュリティアナリスト (Security Analyst)、または検出管理者 (Discovery Admin) ユーザーである必要があります。

手順

ステップ 1 [分析 (Analysis)] > [関連 (Correlation)] メニューを使用して allow リストワークフローにアクセスします。

ステップ 2 次の選択肢があります。

- ワークフローの切り替え：カスタム ワークフローなどの別のワークフローを使用するには、[(ワークフローの切り替え) (switch workflow)] をクリックします。
- 時間範囲：時間範囲を調整 (イベントが表示されない場合に役立ちます) する方法については、[時間枠の変更](#)を参照してください。
- ホストプロファイル：IPアドレスのホストプロファイルを表示するには、**ホストプロファイル ()** をクリックします。アクティブな侵害の兆候 (IOC) タグのあるホストの場合は、IPアドレスの横に表示される**侵害されたホスト**をクリックします。
- ユーザ プロファイル (イベントのみ)：ユーザー ID 情報を表示するには、[ユーザー ID (User Identity)] の隣に表示される [ユーザー (User)] アイコン、または IOC に関連付けられているユーザーの場合は [レッドユーザー (Red User)] をクリックします。
- 制約：表示される列を制約するには、非表示にする列の見出しにある [閉じる (Close)] (X) をクリックします。表示されるポップアップ ウィンドウで、[適用 (Apply)] をクリックします。

ヒント 他のカラムを表示または非表示にするには、[適用 (Apply)] をクリックする前に、該当するチェックボックスをオンまたはオフにします。無効になったカラムをビューに再び追加するには、検索制約を展開し、[無効にされたカラム (Disabled Columns)] の下のカラム名をクリックします。

- ドリル ダウン：[ドリルダウン ページの使用](#)を参照してください。
- ソート：ワークフローでデータをソートするには、カラムのタイトルをクリックします。ソート順を逆にするには、カラムのタイトルをもう一度クリックします。
- このページに移動する：[ワークフロー ページのトラバーサル ツール](#)を参照してください。
- ページ間で移動する：現在の制約を維持しながら現在のワークフローのページ間で移動するには、ワークフロー ページの左上にある該当するページリンクをクリックします。
- イベントビュー間で移動する：関連するイベントを表示するためその他のイベントビューに移動するには、[ジャンプ (Jump to)] をクリックし、ドロップダウン リストからイベント ビューを選択します。

- イベントの削除 (イベントのみ) : 現在の制約されているビューにある一部またはすべての項目を削除するには、削除する項目の横にあるチェックボックスをオンにし、[削除 (Delete)] または [すべて削除 (Delete All)] をクリックします。

関連トピック

[ワークフローのページ](#)

[イベント ビューの設定](#)

許可 (Allow) リストイベントの表示

最初の評価が行われた後、監視対象ホストがアクティブなallowリストに準拠しなくなると、システムはallowリストイベントを生成します。リストイベントは、関連イベントの特殊な形態で、Management Center 関連イベントデータベースに記録されます。

Management Center を使用して、コンプライアンスallowリストイベントのテーブルを表示できます。ここでユーザは、検索する情報に応じてイベント ビューを操作することができます。

マルチドメイン展開環境では、現在のドメインと子孫ドメインのデータを表示することができます。上位レベルのドメインまたは兄弟ドメインのデータを表示することはできません。

allowリストイベントにアクセスしたときに表示されるページは、使用しているワークフローによって異なります。イベントのテーブルビューで終わる事前定義されたワークフローを使用できます。また、特定のニーズを満たす情報だけを表示するカスタムワークフローを作成することもできます。

始める前に

このタスクを実行するには、管理者、セキュリティアナリスト (Security Analyst) 、または検出管理者 (Discovery Admin) ユーザーである必要があります。

手順

ステップ 1 [分析 (Analysis)] > [関連 (Correlation)] > 許可リスト (Allow List) [イベント (Events)] を選択します。

ステップ 2 次の選択肢があります。

- 基本的なワークフロー操作を実行するには、[コンプライアンス許可 \(Allow\) リストワークフローの使用 \(5 ページ\)](#) を参照してください。
- テーブルのカラムの内容について詳しく調べるには、[許可 \(Allow\) リストイベントのフィールド \(8 ページ\)](#) を参照してください。
- その他のオプションを表示するには、テーブル内の値を右クリックします。

許可 (Allow) リストイベントのフィールド

ワークフローを使用して表示および検索できる許可 (Allow) リストイベントには、次のフィールドがあります。

デバイス

allowリスト違反を検出した管理対象デバイスの名前。

説明

allowリスト違反の説明。次に例を示します。

Client "AOL Instant Messenger" is not allowed.

アプリケーションプロトコルに関する違反には、アプリケーションプロトコルの名前とバージョンだけでなく、使用されているポートとプロトコル (TCP または UDP) も示されます。禁止を特定のオペレーティングシステムに限定する場合は、説明にオペレーティングシステム名が含まれます。次に例を示します。

Server "ssh / 22 TCP (OpenSSH 3.6.1p2)" is not allowed on Operating System "Linux Linux 2.4 or 2.6".

ドメイン (Domain)

allowリストに準拠しなくなったホストのドメイン。このフィールドは、マルチテナンシーのために Management Center を設定したことがある場合に表示されます。

ホストの重要度 (Host Criticality)

allowリストに準拠していないホストに対してユーザーが割り当てた重要度 ([なし (None)]、[低 (Low)]、[中 (Medium)]、または[高 (High)])。

IP アドレス

allowリストに準拠しなくなったホストの IP アドレス。

ポリシー

違反した関連ポリシー、つまりallowリストを含む関連ポリシーの名前。

[ポート (Port)]

アプリケーションプロトコルallowリスト違反 (非準拠アプリケーションプロトコルの結果として発生した違反) をトリガーした検出イベントに関連付けられているポート (存在する場合)。他のタイプのallowリスト違反の場合、このフィールドは空白です。

プライオリティ

ポリシーまたはポリシー違反をトリガーしたallowリストに指定されている優先順位。これは、関連ポリシー内のallowリストの優先順位または関連ポリシー自体の優先順位によって決まりま

す。allowリストの優先順位は、そのポリシーの優先順位より優先されることに注意してください。このフィールドを検索するとき、プライオリティなしの場合は none を入力します。

Time

allowリストイベントが生成された日時。このフィールドは検索できません。

ユーザー (User)

allowリストに準拠しなくなったホストにログインしている既知のユーザーのアイデンティティ。

許可 (Allow) リスト

allowリストの名前。

カウント (Count)

各行に表示される情報と一致するイベントの数。[カウント (Count)] フィールドは、複数の同一行が生成される制限を適用した後でのみ表示されることに注意してください。このフィールドは検索できません。

許可 (Allow) リスト違反の表示

システムは、ネットワークの現在のallowリスト違反のレコードを保持します。違反はそれぞれ、ホストのいずれかで実行することが禁止されている事柄を表します。ホストが準拠するようになると、システムは、修正された違反をデータベースから削除します。

Management Center を使用して、アクティブなすべてのallowリストに対するallowリスト違反のテーブルを表示できます。ここでユーザは、検索する情報に応じてイベントビューを操作することができます。

allowリスト違反にアクセスしたときに表示されるページは、使用しているワークフローによって異なります。事前定義されたワークフローはホスト ビューで終了しますが、このホストビューには、制約を満たすすべてのホストに対して1つずつホストプロファイルが含まれています。また、特定のニーズを満たす情報だけを表示するカスタムワークフローを作成することもできます。

マルチドメイン展開環境では、現在のドメインと子孫ドメインのデータを表示することができます。上位レベルのドメインまたは兄弟ドメインのデータを表示することはできません。

手順

ステップ 1 [分析 (Analysis)] > [関連 (Correlation)] > [違反 (Violations)] 許可リスト (Allow List) を選択します。

ステップ 2 次の選択肢があります。

- 基本的なワークフロー操作を実行するには、[コンプライアンス許可 \(Allow\) リストワークフローの使用 \(5 ページ\)](#) を参照してください。

- テーブルのカラムの内容について詳しく調べるには、[許可 \(Allow\) リスト違反のフィールド \(10 ページ\)](#) を参照してください。
- その他のオプションを表示するには、テーブル内の値を右クリックします。

許可 (Allow) リスト違反のフィールド

ワークフローを使用して表示および検索できる許可 (Allow) リスト違反には、次のフィールドがあります。

ドメイン

非標準ホストが存在するドメイン。このフィールドは、マルチテナンシーのために Management Center を設定したことがある場合に表示されます。

情報

allow リスト違反に関連付けられたすべての利用可能なベンダー、製品、またはバージョン情報。allow リストに違反するプロトコルの場合、このフィールドには、違反の原因がネットワークプロトコルとトランスポートプロトコルのどちらであるのかも示されます。

[IP アドレス (IP Address)]

非標準ホストの IP アドレス。

[ポート (Port)]

アプリケーションプロトコル allow リスト違反 (非標準アプリケーションプロトコルの結果として発生した違反) をトリガーしたイベントに関連付けられているポート (存在する場合)。他のタイプの allow リスト違反の場合、このフィールドは空白です。

プロトコル

アプリケーションプロトコル allow リスト違反 (非標準アプリケーションプロトコルの結果として発生した違反) をトリガーしたイベントに関連付けられているプロトコル (存在する場合)。他のタイプの allow リスト違反の場合、このフィールドは空白です。

時刻 (Time)

allow リスト違反が検出された日時。

タイプ

allow リスト違反のタイプ、つまり、非標準の結果として違反が発生したかどうか。

- オペレーティング システム (os) (このフィールドを検索する場合は、**os** または **operating system** と入力してください)。

- アプリケーション プロトコル (サーバ)
- クライアント
- プロトコル
- Web アプリケーション (web) (このフィールドを検索する場合は、**web application** と入力してください)。

許可 (Allow) リスト

違反されたallowリストの名前。

カウント (Count)

各行に表示される情報と一致するイベントの数。[カウント (Count)] フィールドは、複数の同一行が生成される制限を適用した後でのみ表示されることに注意してください。このフィールドは検索できません。

修復ステータス イベント

修復がトリガーされると、システムは修復ステータス イベントをデータベースに記録します。これらのイベントは、[修復ステータス (Remediation Status)] ページで確認できます。修復ステータス イベントを検索、表示、削除できます。

関連トピック

[修復ステータスのテーブル フィールド](#) (12 ページ)

修復ステータス イベントの表示

修復ステータス イベントにアクセスするときに表示されるページは、使用するワークフローにより異なります。修復のテーブルビューを含む定義済みワークフローを使用できます。テーブルビューには、各修復ステータス イベントの行が含まれます。また、特定のニーズを満たす情報だけを表示するカスタム ワークフローを作成することもできます。

マルチドメイン展開環境では、現在のドメインと子孫ドメインのデータを表示することができます。上位レベルのドメインまたは兄弟ドメインのデータを表示することはできません。

始める前に

このタスクを実行するには、管理者 ユーザーである必要があります。

手順

ステップ 1 [分析 (Analysis)] > [関連 (Correlation)] > [ステータス (Status)] を選択します。

ステップ 2 オプションで、[時間枠の変更](#)の説明に従って、時間範囲を調整します。

ステップ 3 オプションで、カスタムワークフローなど、別のワークフローを使用するには、ワークフローのタイトルの横の [(ワークフローの切り替え) ((switch workflow))] をクリックします。

ヒント 修復のテーブル ビューが含まれないカスタム ワークフローを使用する場合、ワークフローのタイトルの横の [(ワークフローの切り替え) ((switch workflow))] メニューをクリックし、[修復ステータス (Remediation Status)] を選択します。

ステップ 4 次の選択肢があります。

- 表示されるカラムの詳細については、[修復ステータスのテーブル フィールド \(12 ページ\)](#) を参照してください。
- イベントをソートしたり、制約したりするには、[ワークフローの使用](#) を参照してください。
- 関連イベントビューに移動し関連するイベントを確認するには、[関連イベント (Correlation Events)] をクリックします。
- 現在のページにすぐに戻れるようにページをブックマークするには、[このページをブックマーク (Bookmark This Page)] をクリックします。ブックマークの管理ページに移動するには、[ブックマークの表示 (View Bookmarks)] をクリックします。
- テーブル ビューのデータに基づいてレポートを生成するには、[イベント ビューからのレポート テンプレートの作成](#) で説明されているように、[レポート デザイナ (Report Designer)] をクリックします。
- ワークフローの次のページにドリルダウンするには、[ドリルダウンページの使用](#) を参照してください。
- システムから修復ステータスイベントを削除するには、削除するイベントの横にあるチェックボックスをオンにして [削除 (Delete)] をクリックするか、[すべて削除 (Delete All)] をクリックして現在の制約されているビューにあるすべてのイベントを削除することを確認します。
- 修復ステータス イベントを検索するには、[検索 (Search)] をクリックします。

関連トピック

[ワークフローの使用](#)

修復ステータスのテーブル フィールド

次の表に、表示および検索できる修復のステート テーブルのフィールドを示します。

表 2: 修復ステータス フィールド

フィールド	説明
ドメイン	監視対象のトラフィックがポリシー違反をトリガーとして使用し、次に修復をトリガーとして使用するデバイスのドメイン。このフィールドは、マルチテナンシーのために Management Center を設定したことがある場合に表示されます。
ポリシー	違反し、修復をトリガーとして使用した関連ポリシーの名前。
修復名	起動された修復の名前。
結果メッセージ	<p>修復が起動したときに発生した事象を示すメッセージ。ステータス メッセージには以下が含まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Successful completion of remediation • Error in the input provided to the remediation module • Error in the remediation module configuration • Error logging into the remote device or server • Unable to gain required privileges on remote device or server • Timeout logging into remote device or server • Timeout executing remote commands or servers • The remote device or server was unreachable • The remediation was attempted but failed • Failed to execute remediation program • Unknown/unexpected error <p>カスタム修復モジュールがインストールされている場合、カスタム モジュールによって実装される追加のステータス メッセージが表示される場合があります。</p>
ルール (Rule)	修復をトリガーとして使用したルールの名前。
時刻 (Time)	Management Center が修復を起動した日付と時刻。
カウント (Count)	各行に表示される情報と一致するイベントの数。[カウント (Count)] フィールドは、複数の同一行が生成される制限を適用した後でのみ表示されることに注意してください。このフィールドは検索できません。

関連トピック

[イベントの検索](#)

修復ステータス イベント テーブルの使用

イベントビューのレイアウトを変更したり、ビュー内のイベントをフィールド値で制限したりできます。

カラムを無効にすると、そのカラムは（後で元に戻さない限り）そのセッションの間中は無効になります。最初のカラムを無効にすると、[カウント (Count)] カラムが追加されます。

テーブルビューの行内の値をクリックすると、テーブルビューが制約されます（次のページにはドリルダウンされません）。



ヒント テーブルビューでは、必ずページ名に「Table View」が含まれます。

マルチドメイン展開環境では、現在のドメインと子孫ドメインのデータを表示することができません。上位レベルのドメインまたは兄弟ドメインのデータを表示することはできません。

始める前に

このタスクを実行するには、管理者ユーザーである必要があります。

手順

ステップ1 [分析 (Analysis)] > [関連 (Correlation)] > [ステータス (Status)] を選択します。

ヒント 修復のテーブルビューが含まれないカスタムワークフローを使用する場合、ワークフローのタイトルの横の [(ワークフローの切り替え) ((switch workflow))] メニューをクリックし、[修復ステータス (Remediation Status)] を選択します。

ステップ2 次の選択肢があります。

- 表示されるカラムの詳細については、[修復ステータスのテーブルフィールド \(12 ページ\)](#) を参照してください。
- イベントをソートしたり、制約したりするには、[ワークフローの使用](#) を参照してください。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。